令和４年度旭川未来会議２０３０　報告会　会議録

１　開催日時　　令和４年１１月１日（火）　午後６時３０分から午後８時３０分まで

２　開催場所　　旭川市市民活動交流センターＣｏＣｏＤｅ　ホール
（旭川市宮前１条３丁目３番３０号）

３　出席者（参加者）　　※敬称略，五十音順

（１）観光分野

井上雅之，大野由加利，柏葉健一，菊原洋樹，椿谷有海，西野目智弘
※伊藤公久，喜久野夕介，山崎五良，米谷侑治は欠席

（２）農業分野

佐藤まどか，佐野敏子，清水光子，高橋直人，谷越亜紀，野﨑達也，守屋大輔
※鹿野剛，川村さくら，佐藤絢也は欠席

（３）福祉分野

石川雅之，神田典行（オンライン参加），五所卓子（オンライン参加），高木恵，高橋糸子，髙橋通江，飛驛晶子
※高森崇，玉田昌嗣，中島寛之は欠席

（４）若者分野

秋保里衣，池田七夕梨，加納光，佐藤有沙，髙松治斗，武田美紀，筒井和騎，沼澤雪菜，山田彩華
※合原翔太，吉見季里子は欠席

（５）環境分野

朝倉優美香，鹿島浩平，久保澄佳，佐藤靖隆，中村和子，藤山大樹，吉田小夏
※菊池佳，北沢侑也，橋口新平は欠席

（６）子育て分野

會田さやか，早川由理，松澤美沙，山田覚，吉田育子
※小林香澄，丸山恵理は欠席

４　出席者（旭川市）

今津市長
森本ＣＤＯ
（観光スポーツ交流部）小島次長　（観光課）橋本課長補佐，大塚主査
（農政部）加藤部長，金次長　（農政課）田中課長補佐，山中　（農業振興課）杉山課長
（福祉保険部）金澤部長　（福祉保険課）今課長，古川主幹，鷲塚主査，正木
（地域振興部）三宅部長，八木次長
（地域振興課）佐瀬主幹，南條課長補佐，菊地課長補佐，中村主査，新妻
（環境部）富岡部長　（環境総務課）安富主幹，宮田主査　（廃棄物政策課）小池課長
（子育て支援部）竹内次長　（子育て支援課）清原主査　（おやこ応援課）川村課長，柴田主幹

（総合政策部）熊谷部長
（広報広聴課）中屋課長，山本係長，乙坂主査，吉岡，村田，吉野
（政策調整課）丸山主査，石田主査，大島主査
（秘書課）藤川課長補佐

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　　７名（市民等：５名，報道機関：２名）

７　会議概要

（１）市長あいさつ

皆さんこんばんは。旭川市長の今津寛介と申します。

今日は，旭川未来会議２０３０の報告会に，皆様お忙しい中お集まりいただき，誠にありがとうございます。

５月３０日のキックオフミーティングから本日まで，都合５回にわたって会議をしていただき御意見を頂いたところで，本当に感謝を申し上げたいと思います。

今，入場させていただきましたが，非常に和気あいあいとした雰囲気の中で，おそらく会議の中で色々な意見が出て充実した形になったのではないかと思っております。

これから御意見を聞かせていただいて，でき得る限り市民の皆様の御意見を市政に取り入れて，政策として実行していきたいと思っており，今日は皆様の発表を楽しみに参加させていただいております。今日は楽しく聞かせていただきたいと思いますので，どうぞよろしくお願い申し上げます。

（２）各分野報告

ア　観光分野

（参加者から報告）

観光分野は，私を含めた公募参加者２人のほか，旭川市の観光関係団体，観光事業者，ホテル旅館関係，観光施設運営者，地場産品の製造・販売に携わっている方で構成され，合計１０人で話し合ってきました。

旭川市の各産業の最前線で活躍し，全国的にも知名度のある方々が参加者として出席するような会議でしたので，私のような若輩者が発表させていただくのはおこがましい限りではありますが，旭川未来会議という会議の表題らしく，旭川の未来を担う２０代・３０代から発表させていただくのが好ましいのではと，会議での諸先輩方の後ろ盾もありまして，私から発表させていただきます。

それでは早速，報告に入らせていただきます。

【スライド１】

はじめに，観光分野としては，「観光客の誘客に向けた取組について」をテーマといたしました。これは，旭川市における観光としては，国内・国外を問わず，少しでも多くの皆様に，旭川市を訪れていただくということが，シンプルかつ，最大の目標であると考え，一人でも多くの観光客を旭川市に誘い込むために，どのような取組を実施すればよいかを議論すべきと考えたからです。このテーマを基に，観光客の誘客に向けた取組を話し合いました。

【スライド２】

観光客の誘客に向けた取組を議論していく上で，旭川市の観光に関する基本的な情報を整理しました。

まずは，観光分野が考える２０３０年の旭川のあるべき姿として，「世界中から訪れたくなる旭川」を目指すべきということをイメージしました。このようなあるべき姿をイメージした理由といたしましては，「アフターコロナには，世界中でこれまで抑圧されていた観光・旅行熱が一気に爆発する時代が訪れることが想像できるため」などの，主な４項目をあげております。

【スライド３】

次に，観光地としての旭川市の特徴です。こちらも，「大雪山国立公園の恵みを受けた自然環境を最大限に活かした産業があること」など，主な５項目を記載しております。

【スライド４】

次に，北海道内で同規模の都市レベルである函館市と比較してみます。コロナ禍前の令和元年度のデータでは，観光入込み客数は旭川市も函館市も，ともに５００万人程度でした。一方，宿泊延べ数を比較すると，旭川市は９０万泊程度のところ，函館市は３８０万泊程度と，４倍も多い結果となっています。

【スライド５】

このことから，旭川市は函館市に比べて，宿泊したメリットを活かせる観光コンテンツが不足しているのではないかと分析し，それを解決するためには，朝と夜を中心にした旭川着地型旅行商品造成の取組を実施すべきと考えました。

【スライド６】

さらに，旭川市の季節別の観光入込み客数を見ると，繁忙期と閑散期の差が大きく，冬まつりの開催期間を除く，１１月から４月の観光客が落ち込むことが分析できることから，

【スライド７】

旭川市が１年中楽しめる観光地となるよう，観光商品の開発が必要であると考えました。

【スライド８・９】

そこで，第１回目の会議では，「これをすれば旭川に観光客を呼び込めるはず！」という，観光客の誘致に向けたアイデアを参加者の皆様に出していただきました。これを，第２回目の会議で，事業の実施に必要な予算と，困難度を表に整理して優先順位を付け，第３回目の会議で，

今後，重点的に取り組むべき３つの施策をまとめました。

【スライド１０】

まず１つ目は，道の駅や市場などを活用した朝活プロジェクトです。これは，先ほどの函館市との比較でもありましたが，函館は朝市や夜景が有名で，これらを体験するには必然的に宿泊を伴うことから，宿泊者数が旭川市より多いのではという分析をもとに立案しました。旭川市でも道の駅や市場などを活用して，朝の時間を観光に使ってもらおうというものです。具体的な事業案としては，現在，市場はコロナ禍で観光客が立ち入ることへのハードルが高いとのことでしたので，まずは道の駅やその周辺を活用して，朝から物産展を開催したり，朝採り地場産品を食べるツアーを造成するというものです。

【スライド１１】

次に２つ目は，旭川駅南の観光地化です。旭川駅は，駅の南側にガーデンや川が隣接するという，全国的にも珍しい駅です。これをもっと活用して，旭川駅の南側を更に観光地化しようというものです。具体的には，旭川駅の南側をゴールとする川下りの旅行商品を開発・販売したり，堤防から駅に向かってスラックラインを設置してみたり，冬は雪遊びや雪合戦の大会を開催するなど，旭川駅の南側をもっと活用していこうというものです。

【スライド１２】

次に３つ目は，旭山動物園における体験型アクティビティの充実です。全国的にも旭川で最も知名度がある旭山動物園を，もっと体験ができる施設にできないかということです。旭山動物園は動物たちの命を伝えるための施設であり，職員の皆様もその使命のもと一生懸命業務に従事されていると思います。その点を踏まえた上で，旭山動物園を観光誘客の素材として捉えた場合，例えば，夜の観光を推進するために動物園でトロッコなどに乗って移動しながら見学できるナイトサファリを実施したり，ペンギンの散歩も少し発展して，スケートリンクの上でペンギンと一緒にリンクを滑走できる取組をしてみるなどです。既に，夜の動物園や雪あかりの動物園などにも取り組んでいただいておりますが，もう少し期間を拡大し，実施したいところです。

以上の３つの項目が，観光分野の会議で重点的に取り組むべきという総意に至った案ですが，この３つ以外にも，是非とも取組を検討してほしいものとして，１０項目ほど提案させていただいております。

【スライド１３・１４】

例えば，旭橋付近での人工スキー場建設，温泉ガストロノミーツーリズムの実施などです。

【スライド１５】

また，会議の中では「参加者の皆さんから出た意見の全てが重要であり，旭川市として全て取り組んでいただくのが理想」といった発言も出ており，重点的な取組や検討すべき取組に選ばれなかった意見も，全て整理して報告書にまとめさせていただきましたので，行政を中心に民間企業も連携や支援をする形で，意見の実現に取り組んでいけたらと思います。

【スライド１６・１７】

最後に，観光分野の参加者の紹介と，会議の経過をまとめております。

以上をもちまして，観光分野会議の報告とさせていただきます。私自身，参加者の皆さんの意見を聞いていて，わくわくするような取組も多く，この会議で出た，旭川の観光資源を存分に活かした，旭川だからこそできる唯一無二の取組が全て実現するならば，旭川市は日本で有数の観光地になるのではないかという気がしました。

もちろん，旭川市の財政面なども含めて，全てを実現させていくのは不可能に近いこともわかりますが，この報告書の内容を精査し，少しでも多くの意見が実現されることを願います。

それが，２０３０年までにできるかどうかは分かりませんが，その努力を続けた未来の先にはきっと，「誰もが訪れたくなる旭川」ができているのだろうと思います。

以上で，観光分野の報告を終わります。皆様，御静聴ありがとうございました。

（市長）

観光分野の皆様，貴重な御意見をありがとうございました。

「世界中から訪れたくなる旭川」ということです。発表にありましたとおり，今はコロナ禍で観光業界に携わる方あるいは関係者の皆様も非常に苦労されてきましたが，いよいよこれからウイズコロナに向かっていく中において旭川の魅力をどのように高めていくか，どのように多くの観光客の皆様，関係人口，交流人口を獲得していくかという視点から有意義なお話だったということで感謝申し上げたいと思います。

何より素晴らしいのが，旭川の観光の現状をしっかりと分析していただいて，その中で弱点を補うような提案を頂きました。財源の問題もあるというお話でしたが，そんなに大きくお金をかけなくてもすぐ取り組めることがたくさんあるのではないかと思っています。

重点的な取組の一つ目に「道の駅や市場などを活用した朝活プロジェクト」とありました。かねてから，朝，夜になかなか楽しんでいただける所がないということから，函館との宿泊客の差のように旭川に泊まっていただけない現状があります。たまさか今年市制施行１００周年の中でチームナックスの森崎さんに旭川市にお越しいただき，外からの視点で，動物園プラスの何かがあって泊まってもらえるような仕組みが必要ではないかという御意見を頂きました。まさにそれと合致する素晴らしいアイデアだと思いますので，取り組んでいきたいと思っています。市場の皆様に朝市など開催できないのですかと伺ったことがあるのですが，市場の皆様からすると市内の飲食店の皆さんがお客様なので朝でも夜でもお店みたいなことをやってしまうとお客様を取ってしまうことになるというような意見がありました。しかし，道の駅などで市内の民間の方に行っていただくのであれば，そういった課題もクリアできて新しい旭川の名所になるのではないかと感じました。

２つ目の「旭川駅南の観光地化」ですが，駅からガーデンや河川が見えるというのは世界的にも珍しい環境ですし，駅から出て５分でカヌーが楽しめるということも非常に希有なことだと思います。さらには，ビーチの建設は，観光分野の参加者の方から「昔はジャンボプールがあったけれども，今の子どもは夏に遊ぶ所がないからビーチを作ったらいい。」と提案を受けていました。夏に日差しを気にせず水遊びができたらいいよねということでビーチのアイデアを頂いて，今検討しています。水の滞留などの課題があるのですが，川のまちですから，何らか

の形で子どもたちが水に親しみながら遊べる場所を作っていきたいと思います。また，中心部から近い所に雪遊びや雪合戦，スラックラインなどを楽しめる身近な環境があれば，観光客だけでなく市民の皆様に喜んでいただけるのではないかと思います。

重点的な取組の３つ目「旭山動物園における体験型アクティビティ」ということで，ナイトサファリは正直私も発想になかったと思いながら聞いていました。ペンギンと一緒に滑ることができるスケートリンクというのはおもしろいと思いますし，これはなかなか難しいと思いますがペンギンと泳いだりするのもいいのではないかと思ったりもしました。それぐらい思い切り発想を変えて考えられたらと思います。動物園の皆さんとも，どういった形が可能なのか検討を進めてまいりたいと思います。

今回は，観光地化の問題だけではなく様々な御意見も合わせて頂きました。人材育成や交通体制など，これは旭川だけではなくて近隣ともしっかり連携していくということですし，今年スタルヒン球場で開催したフェスについても触れていただいています。世界から見れば，旭川も東川も美瑛も同じ地域ですから，そういった意味では今年の１月に１市８町で，旭川大雪圏域連携中枢都市圏の連携協約というものを結んで，観光でも農業でも公衆衛生でも救急でも互いに連携してやっていこうという取組が行われていますので，他の町長の皆さんとも連携しながら，上川・旭川を中心に様々な取組を進めていきたいと思っているところです。

この度は観光に関する貴重な御意見を頂き，誠にありがとうございました。

イ　農業分野

（参加者から報告）

【スライド１】

旭川未来会議２０３０農業分野の発表をさせていただきます。

【スライド２】

農業分野では,「米プラスの産地づくりーわたしたちが描く，２０３０年のあさひかわ農業ー」をテーマとして，魅力ある産地づくりを進めていくため，米どころという強みに加え，旭川の農業にとって「プラス」となる新たな取組や可能性について議論しました。

【スライド３】

作り手である農業者，農産物を卸す市場関係者，農や食に関わりがある一般公募者の１０名が参加し，これまでに３回のワークショップを行いました。

【スライド４】

まず，ワークショップでは，米プラスの産地づくりというテーマに対し，どうアプローチしていくかを整理するために，あさひかわ農業の現状を知るためＳＷＯＴ分析を行いました。

主な分析結果は御覧のとおりです。

ＳＷＯＴ分析の結果を踏まえ，２０３０年の旭川の農業がどうなっていたら良いかを全員で意見交換をしました。

【スライド５】
　そして，２０３０年のあるべき姿を「私たちが，次代の人たちが，楽しく農業をし続けているまち」と位置づけました。

【スライド６】
　あるべき姿を考えた理由として，あさひかわ農業を将来にわたり持続的に発展させていくためには，まず，旭川に目を向けてもらい，あさひかわ農業のファンを増やしていくことが重要ではないか，それを実現するためには，私たちが，次代の人たちが，２０３０年も楽しく農業をし続けていることが必要だと考えました。

【スライド７】
　その，あるべき姿を実現するために，大切と考える「儲かる農業」「見せる農業」「繋がる農業」という３つの視点から，そこにアプローチするための８つの方向性を整理しました。

【スライド８】
　こちらはその関係性を表したものになります。
　この３つの視点と８つの方向性は，独立したものではなく，それぞれに繋がりがあり，相互に作用するものであると考えました。
　では，私たちが考えた具体的な取組について御紹介します。

【スライド９】
　まず，「儲かる農業」「新たな品目へのチャレンジや生産拡大」です。
　近年の日本人の米離れやコロナの影響などにより米価が低迷するなど，米の産地としては厳しい状況が続いています。そこで，品種改良や気候が変化してきたことなどにより，米と並行して取り組める農作物へのチャレンジ，例えば，さつまいもなど「新たな高収益作物の生産拡大」が「儲かる農業」に繋がると考えました。

【スライド１０】
　また，生産した農産物を加工したり，必要な人につなげることで「無駄なく，全て売り尽くす仕組みづくり」も「儲かる農業」を実現させるために有効と考えました。
　今年，買物公園にオープンした『旭川はれて』では，規格外野菜を使った特別メニューを提供するといったフードロスを削減し，農家の所得向上にも繋がる取組が行われたと聞いております。
　今後，このような取組が広がっていってほしいと思います。

【スライド１１】
　また，農産物の「付加価値を向上」させる取組として，例えば，旭川に来た友人に勧めたり，遠方の知人への手土産とできるような商品を旭川で作られた米や野菜を使用し，地元のメーカーと協力して開発することや，米どころの強みを活かし，注目度が高まっている米粉の利用拡大についても進めていってはどうでしょうか。

【スライド１２】

次に「見せる農業」です。

皆さんは，田んぼの青々とした稲や，秋になり黄金色に輝く稲穂は見たことがあると思いますが，田んぼに植える前の小さな稲の苗を育てている光景を見たことはありますか。育苗といって，ビニールハウスに小さな苗がびっしりと植えられていて，一面，鮮やかな緑色でふかふかのじゅうたんのように見える光景はとても奇麗です。我々農家には当たり前の光景や風景ですが，是非，それを皆さんにも見ていただきたいです。

見に来ていただくには，まず，知ってもらうことが必要なので，「市内外へのアピール力強化」は必須です。「旭川にゆかりある著名人やインフルエンサー」が持っている発信力を起用するのも一つではないでしょうか。

また，市内全てのタクシーの屋根に旭川の米や野菜をモチーフにした表示灯を乗せて走ってもらい，観光客にＰＲしても面白いのではないかと思います。

【スライド１３】

生産現場やそこでおいしい農産物を作っている生産者を知ってもらうきっかけづくりも重要です。直接，現地に来てもらい，農作業体験を楽しんでもらう。そして，実った旭川産の農産物を実際に味わってもらう。そんな，「もの」プラス「こと」のような「体験型ふるさと納税返礼品」を提供するのも有効な取組ではないかと考えました。

【スライド１４】

次に，「繋がる農業」です。

まず，現在を未来へ繋げるため「環境への負荷低減」というのは，地球規模の話であり，避けては通れない道だと思います。具体的には，「エコロジカルな素材を活用した包装」やそもそも包まれていないものを「量り売り」で買い，自分の買い物カゴに入れて持って帰るといったことを旭川モデルとして先進的に取り組んでみてはどうでしょうか。これは農業者，流通・小売業者，消費者みんなが我慢して行うのではなく，未来に繋がる一歩だと理解し，それぞれが自然に行動できるように意識をデザインしていくことも必要だと思います。

【スライド１５】

また，「労働力不足への対応，農業人材の確保」も必要であり，次代の人たちが楽しく農業を続けていくためにも，やはりスマート農業の普及拡大は欠かせない取組です。新規就農者の確保とあわせて着実に進めていかなければならないと思います。

【スライド１６】

「地産地消の推進」は農業者と消費者を繋ぐ重要な取組となります。食べることは生きていく上で欠かせないことであり，地元で作られたものを口にすることには多くの利点があります。そういった食の重要性を生産者自ら伝えることで，我々にしか伝えられないことを知ってもらうきっかけになると思いますので，例えば，市内小中学校への出前講座を実施するなど子どもたちをはじめ，多くの人へ食の大切さを伝え，将来のあさひかわ農業のサポーターを増やして

いきたいと考えました。

【スライド１７】

ほかにも，輸出を見越した栽培及び加工の取組，農福連携の推進，朝ごはんに旭川産米のおにぎりを食べてもらうきっかけづくりなどといった意見や，来年完成予定の市役所新庁舎の食堂で地場の農産物を使ったメニューを提供したり，イベントスペースで直売会などのイベントを行うといった，新庁舎を活用しての農産物のＰＲという意見がありました。

【スライド１８】

今回，未来会議に参加して思ったことは，色々な人の視点からの話を聞き，意見交換したことはこれからの農業経営に活かせることが多いと感じましたし，取組を進めていくことによって，楽しくやっている農業を益々楽しんでいける，さらには，あさひかわ農業のファンたちと一緒に楽しむことができたりと，みんなが幸せになれるのではないかと思いました。

そして，最後になりますが，私は８月１日に開催された市政１００年の記念式典に出席させていただいたのですが，冒頭の今津市長の挨拶で，「旭川市は都市と自然とがバランス良く融合している稀有な街であります」というようなお話をされていました。

確かに北海道第２の都市でもありますし，街の緑化も充実していると思います。ただ，街から離れますと，そこには奇麗なな田んぼや畑が広がっていて，そこを守っているのは主に農業者だと思います。

しかし，今，そこを守っている農業者が，近い将来，守っていくのが難しくなるのではと危機感を持っています。

市長のお話しされた「都市と自然との融合」を守っていくためには，農業者と農に関わる方々を持続可能に発展させていくことは必要不可欠だと思います。

今回，提案した取組が今津市長に伝わり，多くのことが実現されることを強く願いますし，私たちもこれを機会に努力していきたいと思っています。

そして，提案した取組が実現された時には，あさひかわ農業は益々発展していくものだと私たちは信じています。

以上，農業分野の発表を終わります。御静聴いただき，ありがとうございました。

（市長）

農業分野の皆様，貴重な御意見をありがとうございました。

発表の最後に，「市長に伝わればいいな」という御発言がありましたが，十分に伝わっていますので御安心いただきたいと思います。あわせて，行政の農政だけでは限界がありますから，今後も，今日頂いた御意見に一緒に取り組んでいただけるとうれしく思います。

都市と自然の共生ということで，都市機能が非常に充実していてバランスがいい旭川ですが，農業が持っている多面的機能を果たしていく役割の重要性というのは私どもも認識しているところです。観光客の皆様には，飛行機で旭川空港に降りてくる時にあの夏の田園風景を見て「すごく奇麗な場所だ」とおっしゃっていただいています。また，観光面以外にも，まさに日本の食を守っているのは，旭川・上川の農業だと思っています。心から，日頃の取組に感謝申し上げたいと思います。

日本は人口が減っていきますが世界は増えています。今のウクライナの問題もあり，世界的に見ると食糧難の時代がほぼ来ていると言っても過言ではないと思っています。そういった時にまさに世界の食，世界の方々を救っていくのが旭川の農業だと言っても過言ではないと私自身は認識しているところです。旭川は全道一の米どころなのですが，そのことも御存知でない市民の方が意外と多いです。それから，季節を問わず多種多品目で本当に新鮮で安全でおいしい作物が，野菜や酪農畜産物を含めて豊かな旭川でありますから，まずは市民の皆様に知っていただくことが先決だと思っておりますので，今回頂いた様々な御意見の中で，まずは市民の皆様に取り入れていただけることを行っていきたいと思います。また，後継者の皆さんがいなくなっているという意味でも，将来に向けて持続可能に夢や希望を持ちながら，そして利益を上げていく仕組みづくりが必要だと思いますので，国営の事業をはじめ，スマート農業もこれからの農業を担っていく皆様の期待に応えていけるような政策というものを行っていきたいと感じているところです。

それから，米粉のお話もありました。現在，ふるさと納税を増やしていくように取り組んでいます。品目によってはこれ以上生産ができないのでふるさと納税の宣伝広告を増やしても対応できないという話がありますが，お米は色々な口コミを見ても食べてもらえばおいしいということは分かってもらえますし，在庫も十二分にありますので，やはりまずは旭川の米を売っていく，そして，米粉を加工してスイーツを作ったり，グルテンフリーですから海外に向けて輸出していくなど色々な取組ができるのではないかと思っています。

また，今，市の農政部と相談しながら，東京の大学やレストラン，あるいは大手のスーパーなどに旭川のおいしい農作物を持って行き買ってもらうような取組も進めています。そして，これからは海外にもどんどん売っていきたいと思っています。私は再来週からタイに行ってきますが，タイのバンコクに行って旭川の農作物を売っていきたいと思いますし，台湾，韓国，中国，それから今まで縁のなかったヨーロッパやオーストラリアなどにもフィールドを広げていきたいと思っています。

儲かる農業，見せる農業，魅せる農業，繋がる農業ということで，色々な御意見を頂きましたのでしっかりと取り組んでまいりたいと思います。農業分野の皆さんは，農協の方，市場の方，お店を経営されている方もいらっしゃって，非常に素晴らしい御意見を頂いたと思っていますので，できることから取り組んでまいりたいと思います。

本当にありがとうございました。

ウ　福祉分野

（参加者から報告）

【スライド１】

福祉分野の発表をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

私たち福祉分野では，２０３０年の旭川のあるべき姿について「誰もがその人らしく，普段の暮らしの中で『しあわせに生きる』ためのあたたかい『つながり』が育まれるまち」というスローガンを設定しました。

【スライド２】

はじめに旭川市の福祉を取り巻く現状についてです。

全国的な社会問題となっている『人口減少』や『高齢化』については，旭川においても例外なくその傾向が見られます。

現状における，総世帯に占める単独世帯率と町内会加入率は，地域における人と人とのつながりが弱体化していることを示唆しています。そして，地域福祉をサポートする身近な相談相手である民生委員児童委員の高齢化や担い手の不足についても確認されます。

引きこもり状態にある方や，８０５０問題のような，既存の福祉分野ごとの支援体制のみでは対応困難な制度の狭間のケース，複雑化・複合化した福祉課題を抱えるケースが，とても増えていることも大きな問題となっています。

【スライド３】

これらの背景をキックオフミーティングにて，地域福祉計画に基づき確認をした後，はじめに参加者が思う旭川市の福祉分野における課題について意見交換を行いました。

第１回分野別会議においては，各参加者からの発表に基づき，発表内容が書かれたシートを分類して貼り付ける方法で課題の整理を行いました。

【スライド４】

次に参加者から挙げられた全４９件の課題を最終的に三つの大きな課題として分類しました。

課題の一つ目は，地域住民や障がいを抱える当事者同士などのつながりが希薄になってきているという点です。人口減少や町内会の未加入を含め，周囲との交流機会を持たない単独世帯の孤立化，さらには，コロナ禍により住民同士でつながる機会が減少していることを懸念する声が多く聞かれました。また，同じ悩みを持つ者同士が思いを共有するなど当事者同士がつながりを共に活動する機会を求めているニーズに応える場が少ないことも意見として出ております。

二つ目は，地域福祉活動の担い手が不足しているという課題です。先ほどの民生委員児童委員の高齢化等については，参加者からも課題認識に関わる発言が多くありました。また，具体的には若い世代の地域の福祉活動への参加が乏しく，これを別の角度から見ると，若い世代の方が参加できるような地域福祉活動について，多世代で相互理解がなされていないということが挙げられていました。

三つ目は，地域住民の暮らしを統合的に支援する体制が構築されていないという課題です。これについては，市内には地域包括支援センターや障害者総合相談支援センターなど分野ごとの相談機関がありますが，既存の相談支援機関単独では対応が難しいケースが参加者の実感としても増えていることを確認しました。そして，福祉人材の不足やそれに伴う支援の質の低下などを懸念する意見もありました。

【スライド５】

これらの課題を踏まえ，２０３０年の旭川のあるべき姿を「誰もがその人らしく，普段の暮らしの中で『しあわせに生きる』ためのあたたかい『つながり』が育まれるまち 」というスローガンにまとめました。

スローガンについては，誰かが決めた「しあわせ」ではなく，個々が思う「しあわせ」を尊

重し，それを地域の支え合いやつながりの中で実現することの大切さを，将来に希望をもてる表現で示すということを重視しました。

旭川には医療や福祉を行う事業所や住民が主体的に実施する社会参加の場などの社会資源が豊富にあります。また，これから雪が降る時期になりますが，寒い朝に近所同士で互いを気遣い合って雪はねを行うような人間の温かさなど，旭川の良さや強みが大いにあるものと考えています。これらの良さや強みを生かしながら，行政と地域住民が手を取り合って課題解決に向かう姿勢の大切さを込めたスローガンとなっています。

【スライド６】

次に，課題解決に向けたアプローチについて協議した内容です。

「繋がりの希薄」という課題に対しては，地域にとって必要な取組をみんなで考え実施する中で，住民同士の繋がりの必要性を再確認できたという実践報告がなされました。

「担い手不足」の課題については，コロナ禍を経て地域福祉活動の多様な形を模索することで，若い世代の方など新たな担い手を確保する取組が有効とする意見がありました。

「不十分な統合的支援体制」については，市が令和４年度から，福祉制度の狭間や複雑化・複合化した福祉的課題を抱えるケースに対するアプローチや，各相談機関との支援調整を行うことなどを目的として配置している「地域まるごと支援員」について，役割の周知や事業の更なる定着を図る必要性が議論されました。

【スライド７】

先ほどの意見を含め全４１件の発表について，三つの取組の方針を設定しました。

一つ目の方針は，「助けて」と言える・「なんもなんも」と助け合える居心地の良いつながりを地域の中で醸成していくということです。

各種取組のベースには，各地域における住民同士のつながりや地域での活動の充実が不可欠であり，このことがまち全体をよりよくするものであると考えています。

この方針の中には，町内会活動や近隣との助け合いの在り方を多世代で協議する機会を設けることや，子どもから大人まで地域福祉を学ぶ機会を設けることなどが具体的な取組として考えられるものと思います。

二つ目は，『これまで』を大切にしつつ『これから』の持続可能な地域福祉の在り方を多世代で柔軟に学び・考え・活動するという方針です。

これまでの地域福祉や各コミュニティの役職者の方や担い手の方などの固定化・高齢化に加え，コロナ禍により，各コミュニティにおける対人活動に関する住民の意識の変化等を踏まえた対応が求められると考えました。

具体的にはＩＣＴの活用や，地域福祉に係る活動や活動を行う組織の機能を振り返り，役割分担や連携の有り方に関して協議し，これまでの在り方に必ずしもとらわれず，これからの地域福祉について考えていくことが求められます。

三つ目の方針である「豊富な社会資源を活用し，行政と住民が一体となり，個人や地域が抱える困りごとをしっかり受け止める支援体制を築いていく」についてです。

唐突な話ですが，私は旭川をとても住みよいまちだと思っています。スローガンに関する５ページ目のスライドでも話をしましたが，医療機関や福祉の事業所がとても充実しています。

それに加え，例えば近所の公園一つをとっても高齢者の介護予防や多世代の交流の場として活動場所として非常に有益な社会資源になるものと考えております。そのような身近な旭川の良さについても，みんなで気付き合って認め合って，行政と住民が共通認識をもって取組を行うべきだと考えます。

その中で具体的には「地域まるごと支援員」を含め各分野の相談機関が十分に機能を発揮できるよう環境整備を行うとともに，総合相談の一つとして，行政の窓口においても，関係機関との連携の意識を更に深めていただき，ともに個人や地域が抱える困りごとに対応できるような体制を作っていくことが望まれます。

以上が福祉分野の協議の中で議論をしてきた内容です。

【スライド８】

参加者の皆さんからの感想・意見については次のとおりです。

多くの意見や感想が聞かれましたが，今回の協議が来年度策定する地域福祉計画や，市や各地域における今後の取組に反映されていくことを期待しています。

【スライド９】

最後に福祉分野の参加者と分野別会議の経過の概要をお示しします。

私個人としましても，回数がとても少ない中での協議ではありましたが，非常に有益な話合いができたと思っております。しかし，もう少し具体的な具体策やソーシャルアクションにつながるようなことができればとも思っております。

私は道外出身であり，旭川市以外に住んだ経験もあります。そのような中，旭川に来てこのまちに住んだことで，旭川がとても住みやすいまちだということを実感しておりますし，先ほど申し上げましたように，旭川には医療機関や福祉の事業所がとても多くあります。ですので，そのような強みを生かし，福祉事業所の方や行政の方，そして住民が手を取り合って強みを生かした旭川になれればと思います。福祉でまちづくりをするということがとても重要な視点ではないかと思い，私自身も担当している永山圏域だけでなく市全体を見て活動を広げていきたいと思います。

以上で福祉分野の報告を終わります。ありがとうございました。

（市長）

福祉分野の皆様，貴重な御意見をありがとうございました。

今の発表を聞かせていただいても，日頃から市民の一番身近なところでどれだけの課題に向き合っていらっしゃるのかということがひしひしと伝わってきました。本当にありがとうございます。

旭川の魅力はたくさんありますが，間違いなくその中の一つに，誰もが安心して暮らしていける，福祉あるいは障がいをお持ちの方も誰もが取り残されないまち，それが旭川の優しさあるいは強さにつながっていると思っておりまして，皆様の日頃の活動に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

今回は様々な意見がある中で絞り込みも大変だったと思いますが，４９項目の課題そして大

きく三つの分類でお話しいただき，その具体的な解決策のアプローチについても御提案いただきましてありがとうございます。

福祉の分野は，改めていくには一朝一夕ではとてもできるものではないと思っておりますが，今日頂いた御意見を基に，私どもと一緒に取り組んでいただけると大変有り難いと思います。

特に，全体的に繋がりの希薄化ということが大きな課題のテーマなのではないかと私自身も感じました。今年の４月から「地域共生社会の実現に向けた施策の推進に関する条例」を施行しておりますが，住民の地域共生社会の理解促進を図る，あるいは住民の皆様の連帯意識を醸成する土壌を整えていく必要性を再認識したところです。

また，担い手不足という課題の中でＩＣＴの活用のお話がありました。コロナ禍を経て，社会の様々な分野の課題解決には，農業なども含めてですが，ＩＣＴの活用が求められています。今までもコロナ対策を含めてそういった予算を計上してまいりましたが，ＩＣＴの導入により色々な負担軽減が図られるのであればより一層検討を進めていく必要があると感じました。

統合的支援体制については，お話にもありましたが，今年度から地域まるごと支援員の事業を開始しているところです。なかなか従来の枠組みの中では対応が難しいこともあったと拝察しますが，これまでのやり方にとらわれない色々な取組の中でこの地域まるごと支援員を今年度からスタートしています。この事業も分かっていただいている方もいますが，そうでない方もいまだに多いことが実情ですので，皆様のお力を頂きながら市民の皆様にもしっかりとお知らせしていきたいと思います。

今回の御意見は，第５期地域福祉計画に生かしていけるように反映させていただきたいと思います。また，これからも，旭川で暮らしていけばお年寄りの皆さんも安心してそして生き生きと健康寿命を延伸しながら暮らしていけるというように，高齢化率も増えていますが，それを憂えているのではなくて，逆にお年寄りの皆さんも元気で暮らしていけるまち旭川なんだ，やさしいまち，あたたかいまち，みんなで支えていくまち旭川なんだということを今回のあるべき姿として私も改めて認識させていただきました。今後の様々な取組にまさに繋がりを育んでいけるように生かしてまいりたいと思います。

貴重な御意見，誠にありがとうございました。

エ　若者分野

（参加者から報告）

【スライド１】

若者分野の発表を始めさせていただきます。

テーマ「若者が考える魅力あるまちづくりについて」ということで，提言を発表します。

【スライド２】

今回の参加者は，スポーツや音楽，ＩＴ，まちづくり，ものづくりなどの仕事をするメンバーと大学生が３名で，平均年齢が２６歳です。

これまでの会議では，若者らしく自由な発想で話合いを重ねてきましたので，まずは議論の経過をお話しさせていただきたいと思います。

【スライド３】
第１回会議では，旭川についてのＳＷＯＴ分析からあるべき姿について自由に意見を出し合いました。

【スライド４】
旭川の強みとして「自然が豊か」，「空港が近い」など，弱みとしては「発信力が弱い」，「買物公園を生かせていない」などの意見があり，機会としては「今津市長の下新しい取組が増えていること」，脅威としては「若者の流出」などが挙げられました。

【スライド５】
２０３０年の旭川に必要なことという項目ですが，１０年後の旭川については「若者が休日を楽しめるまち」，「自然×観光×ＩＴ」，「すべての人が自由に表現でき，つながりあえるまち」などの意見が挙がり，そのためには「守りの姿勢から攻めの姿勢への転換が必要」などの意見が出ました。

【スライド６】
市長との意見交換会では，思ったことを率直にぶつけさせていただき，旭川の魅力を再認識できたほか，市長からは「チャレンジできるまちにしたい」，「失敗を恐れず挑戦してほしい」という言葉がありました。

【スライド７】
これらの議論を踏まえ，１０年後の旭川のあるべき姿については，若者が希望を持てるまちであってほしいという意味で，「若者たちがいきいきとチャレンジし活躍するまち！」というところに意見がまとまりました。
そこで，どのようなことができたらわくわくするだろうというイメージを膨らませ，次の四つの提言にまとめました。

【スライド８】
私たちの提言の一つ目は，「＃発動！あさっぴーちゃんねる。」というものです。今，旭川市の公式ＹｏｕＴｕｂｅがあるのですが，そのサブチャンネルという位置付けで，新しくチャンネルを開設することを提案します。
私たちの会議の中で，旭川市には旭山動物園以外にもたくさん良いところがあるにもかかわらず，外の人から「旭川ってどういういいところがあるの？」とストレートに聞かれた時に少し迷ってしまう時があるという話が出てきました。そこで，「これが旭川の魅力だよ。」というように分かりやすいコンテンツがあればこの問題が解決すると考え，こちらの提言に至りました。
具体的には，「プロフェッショナル～旭川市民の流儀」と題して，まだフィーチャーされていないけれど熱意を持って活動されている方に密着取材をしたり，あさっぴーが体当たりで魅力的なスポットを紹介する企画を考えています。
このような新しい広報活動を通して，旭川市の新たなディープな魅力を発掘するだけではな

く，私たち市民一人一人が「旭川市ってこんなにいいところなんだよ。」と伝えていけるようにすることが，ひいてはまち全体の活性化につながるのではないかと考えています。

私も含め，若者分野の中にもチャンネル運営に関わりたいというメンバーがいますので，是非御検討いただければと思います。

【スライド９】

提言②は「＃あんな夢こんな夢『旭川もしもボックス』」です。旭川市に対してこうしてほしいと思っている若者は多いのですが，それを言う機会がなかったり，市に届いていないのがもったいないと考えました。また，日常の中で旭川市の未来について真剣に考えたり話し合ったりすることはほぼないと思いますし，そもそも自分たちの声が届くと思っていないので，そのような場を作ればいいのではないかと思い，意見を出し合いました。

アイデアの一つ目は，思っていることを気軽に言い合える「もしもボックス」をまちなかや飲食店に設置するというもので，シンプルなアンケート形式で紙とペンを置いておき投函してもらうほか，カメラの前で話してもらってもおもしろいかもしれないなど様々な意見が出ました。

二つ目は，今津市長がサプライズで現れ，一緒に旭川の未来について語り合う「今津市長の，あなたの意見いただきます！」です。居酒屋など若者が集う場所にいきなり現れた今津市長と旭川について直接語り合うことができれば，声が届く実感があり若者も声を上げやすいのではないかと思いました。

二つ目と少し似ていますが，飲食店などでトークテーマと時間を決めて，お客様同士で話し合ってもらうというものも考えました。割引があれば協力してくれるお客さんはいるのではないかと思いました。可能であれば，話し合っている風景を定点カメラで撮影し，後に飲食店が市に動画を提出すれば，若者のリアルな声が市に届くのではないかと考えました。

【スライド１０】

提言③は「＃買物公園通りイノベーション３．０」です。

全国初の歩行者天国として知られている買物公園通りですが，今ではとても閑散としてしまっています。私たちはまちの中心部が賑わうことこそが活性化の第一歩だと考えました。同じ内容ばかりが流れている街頭放送や増え続ける空きテナント，老朽化が進んでいる建物など，さらには集いたくても集えない，スケートボードをする若者たちがいるこの現状。このままではいけないと思います。時代とともにあり方を変えるべきだと私たちは提言します。

具体的には，買物公園通りの中に春夏秋冬を表す色彩や植栽を使って，いくつかのコンセプトゾーンを作ったり，スケートボードエリアや路上パフォーマーエリアなど規制されているものからルールを作ってカルチャームーブメントを作るなどです。

買物公園通りは行けばわくわくできる空間，そして人々が集い合える空間であるべきだと思います。若者たちは決して諦めてはいないので，旭川がより一層よりよい魅力あるまちになるよう願っています。

【スライド１１】

提言④は「＃わかもん×デザイン＝みらい無限大∞ ～ワクワクを加速させる旭川式デザイン

教育～」です。

旭川市は，２０１９年にユネスコデザイン都市に認定されたのですが，まだ広く知られていないということが話題になりました。せっかくデザイン都市という素晴らしい都市に認定されたにもかかわらず，この強みを生かしきれていないということで，もっともっとこのデザインというものを旭川の魅力の一つとして大きく取り上げてはどうかという意見が多数出ました。

また，幼少期からデザイン教育を学ぶ環境をつくることで，これから学びたいという若者に向けても発信していけるまちとして実現できるのではないかと意見が多数挙がりました。

デザインはどのようなものに掛け合わせても相乗効果が出るということで，若者だけではなく各分野にも大きな力となるのではないかと思っています。

具体的なアイデアとしては，次のとおりです。

「『見て・触れて・遊べる』デザインミュージアム」は，ものづくりのプロセス展示や体験型の学びを通してデザインを学べるというものです。小さなお子様からお年寄りまで全ての方に楽しく遊んでいただけるように体験型のアミューズメントパークを目指しています。

「旭川式デザイン英才教育」は，デザイン思考を身につけるための教育を幼稚園や学校の授業に導入していくというものです。大学の学科や学部を設立してもいいのではないかと思っています。

三つ目のアイデアとしては，「旭川＝動物園」のイメージが非常に強いということで，町じゅうの標識や公共の場所に動物のデザインを取り入れることを提案します。

四つ目は，ユネスコデザイン都市としての強みを発揮するため，世界のデザイン都市との交流やデザイン関連分野で活躍する方との交流の機会を作るというものです。

また，スライドには載せきれなかったのですが，若者限定でデザインを主体とした事業のスタートアップを支援するという意見も出ました。

これらのことから，若者が新しいことに挑戦できる土壌を育むだけではなく，旭川から多くの魅力が生まれて，世界に発信し次世代へ繋いでいくという未来が作れるのではないかと思います。

【スライド１２】

最後に，スライドに書かれていないことですがお話ししたいと思います。

私たちの会議の中でこのような会話がありました。私たちの平均年齢が２６歳というところで，皆さんもその頃に記憶を戻していただきたいのですが，なかなか仲間うちで集まった時に真剣に旭川のまちの未来を話し合う機会はないということで，私たちにとって今回の会議はとても刺激的で充実した時間になったと思います。

そして，各分野の普段は交わることのない若者たちが互いを尊重しながら意見を融合させて，今回四つの提言を出させていただきました。この提言も，市にやってほしいというよりは一緒にやりたいというような気持ちで述べさせていただいています。

市長，若者を巻き込んでいただければ，まだまだおもしろい意見が出てくるかと思いますので，私たちも含め，またこのような機会を作っていただいて，一緒に明るい旭川を目指していければと思います。

【スライド１３】

最後に，我々が描く２０３０年の明るい未来を，メンバーの二人が絵にしてくれました。こちらを披露させていただき，若者分野の発表を締めさせていただきたいと思います。御静聴ありがとうございました。

（市長）
まず，絵の説明を聞いてみたいです。

（参加者）
会議で私たちが色々な意見を出し合った中で，そういうもののイメージとして，明るい旭川の未来を絵に表してみようではないかと話が出まして，それをみんなに伝えるために描きました。

（市長）
絵の真ん中が買物公園で，右上にスタルヒン球場がありますね。川が流れていて，デザインミュージアムもあって，飛行機も飛んでいますし，虹もかかっています。

（参加者）
ほかにも冬のスポーツや常磐公園など，旭川にあるものを生かして魅力的なまちにしていくということ，また，色々な所から観光の方がたくさん来て，それを「あさっぴーちゃんねる」で色々な魅力を発信しているということを表しています。

（市長）
非常に夢がある絵を拝見させていただきました。どうもありがとうございます。
私も先日，若者分野の皆様の会議にお招きいただき，ありがとうございます。私自身も非常に勉強になりましたし，色々な刺激や気付きも得られたところです。改めてお礼を申し上げたいと思います。
今日は，ＳＷＯＴ分析でも「市長の就任で新しい風が吹いている」とうれしいことを言っていただきました。そう思ってもらえるだけで幸せですが，しっかりと頑張っていきたいと思います。
会議の時にもお話ししましたが，若い人たちが夢や希望を持って挑戦できる旭川に変えていきたいと思いますし，これからの旭川を担っていくのは２０代，３０代あるいは１０代の若い方々ですので，そういう方々がこのまちに誇りや愛情を持っていつまでも暮らしていけるまちを作りたいというのが私の大きな夢でもあります。
今日は提言を頂きましてありがとうございます。
「＃発動！あさっぴーちゃんねる。」は，早速やってください。先日もお話をしましたが，ＳＮＳの使い方が甘いと指摘を受けていますから，私や行政がやると堅くありきたりな感じになってしまいますし，若い人には届かないかもしれませんので，是非若者の発想で進めていただきたいと思います。出せるか出せないかのチェックだけはしますので，大胆に取り組んでいただけるといいと思います。
「＃あんな夢こんな夢『旭川もしもボックス』」は，私で良ければ喜んで行きますが，そもそ

も知られているかという問題がありますので，分かってもらえるのであれば喜んで行かせてもらい，朝までは無理かもしれませんができる範囲の中でお話をしたいと思います。テレビのはしご酒みたいに飲んでしまうと何でもやろうと言ってしまってはいけないので，アルコールは少し控えながらお話メインでできればいいなと思っています。

「買物公園通りイノベーション３．０」ということでありますが，買物公園は今年５０周年で，これからどうするかということを真剣に考えています。御存知の方もいるかもしれませんが，私は今回電動キックボードを導入してはどうかということで意見を述べました。これは，もちろん買物公園の活性化を考えた時にそういう取組も必要だということはあるのですが，敢えて言ったというのは，今まで買物公園がどんどん疲弊していくのを行政も市民の方々も見て見ぬ振りをしてきたのではないかと思っており，一石を投じたいという意図がありました。波紋を起こすことによって，「買物公園は５０周年なんだ」，「確かに歩いている人も少ないし商店も減ってきたけど，食べマルシェなど色々なイベントでも市民に非常に喜んでもらえるスペースであることに変わりはない」など再認識してもらい，これから真剣に考えていきたいという意味で敢えて投げかけたことなのです。５０年前，五十嵐市長もオープニングの時に「これからは新しい時代の方々が新しい買物公園を考えていってほしい。」という言葉を残されています。私は個人的に買物公園の話で今でも忘れることができない話があります。若い人もこのまちが好きだと考えているということは非常に認識していますが，その若い人たちに期待をもってもらえるようでなかった政治や行政の立場に大きな問題があるとも思っています。以前，買物公園で話をしている時に，若い方にこのように言われたことがあります。「いやいや今津さんはそうやって言うけど選挙の時だけでしょ。受かったら変わらないんでしょ。そういうのはもう飽きてきているんだよね。」と。ドレッドヘアの若い方がそのように言うのです。「旭川が好きだけど，言っても変わらないし。」とも言っていました。私が自分の思いなどを話すと，最後に「じゃあ，信じていいんですか。」，「今までの政治家は信じられないけれど，今津さんならやってくれそうだから。信じていいですか。」と言ってくれて，「信じてください。」と話して，若い人が夢を持てる買物公園だったり，まちづくりをしようと思ったことがあったことを思い出しました。買物公園は市民の皆さんにアンケートをとって，どのような買物公園が楽しくて，居場所があって，居心地がいいのかということを，懇話会を作ってハード面からもソフト面からも議論していきます。買物公園だけでなく，銀座通り商店街や高架下，永山，旭町，神楽，神居と色々な商店街がありますから，そういったところの議論をスタートさせますので，また是非きたんのない御意見を頂きたいと思います。

デザインの可能性についても御意見を頂きありがとうございました。デザイン創造都市とは何かというのは分かる人は分かるのですが，関係者以外の人は少し遠い部分があります。私も先日，ユネスコのデザイン創造都市会議に参加してきましたが，２９５の都市の中で４０にデザイン創造都市があって，日本は神戸と名古屋と旭川ということで，両市長とも会ってきました。今度，タイのバンコクにも行きますので，デザイン関係者とも意見交換をしてきます。旭川は農業，お酒，家具，デザインなど歴史に裏打ちされた魅力，財産があります。今は小学校からデザイン教育が始まっていますが，幼稚園，保育園の小さい時からデザイン思考を身に付ける取組というのは本当に目からうろこで，やっていきたいと思います。さらには，もう少し市民の方々にデザインが身近になるにはどうしたらいいかということを考えています。例えば，住民票は我々が小さい時からずっと今でもデザインが変わっていません。そういうもののデザ

インを旭川デザインの力で変えていったり，婚姻届もデザイン都市らしい婚姻届にする，あるいは婚姻届の引換えに何か素晴らしいプレゼントをするなど，デザインによって色々取り組むことができ，まさに無限大だと思いますので，これから色々なことにチャレンジしていきたいと思います。

最後に旭川の未来として示していただいた明るい絵を拝見させていただいて勇気１００倍です。これからも若い皆さんを応援していきたいですし，自ら行動して是非若者らしい風を旭川に吹かせていただきたいと思いますので，よろしくお願いします。

どうもありがとうございました。

オ　環境分野

（参加者から報告）

【スライド１】

旭川未来会議２０３０環境分野の発表をさせていただきます。

環境分野では，「未来のためのサスティナブルな街の実現」をテーマに話し合いました。

【スライド２】

サスティナブルな街の実現に向けて，三つのテーマを設定しました。

一つ目のテーマは「ゼロカーボンシティ旭川を目指して」，二つ目のテーマは「ゼロウェイストタウンを目指して」，三つ目のテーマは「自然との共生を目指して」です。

【スライド３】

テーマ設定の理由ですが，まず，「ゼロカーボンシティ旭川を目指して」は，国や北海道が二酸化炭素の実質排出ゼロを目指す中，旭川市が表明した「ゼロカーボンシティ」を２０５０年までに実現するためには，２０３０年までに土台作りに取り組むことが重要と考えました。

続いて，「ゼロウェイストタウンを目指して」です。ゼロウェイストとはごみを無くすということです。社会全体で循環型社会の形成を目指す中，ごみの埋め立てなどによる環境負荷に対する低減を図るためには，市民みんなで未来を見据えてごみの減量に取り組むことが重要と考えました。

最後に，「自然との共生を目指して」ですが，市民が自然と共生し心地良く過ごすためには，旭川市の環境における現状を知り，緑の大切さや役割を考えることが重要と考えました。

【スライド４】

環境分野の参加者は，環境に関わるお仕事や活動をしている方や，環境に関心の高い方です。これまでに３回の会議を実施し，１回目と２回目の会議では参加者からアイデア出しを行い，それについて話合いを行い，３回目の会議では，これまでの会議で出た意見をもとに，私たちが考える旭川の環境について，意見の取りまとめを行いました。

それでは，会議で出た意見につきまして，それぞれのテーマごとに，発表していきます。

【スライド５】

まず最初のテーマ「ゼロカーボンシティ旭川を目指して」です。

ゼロカーボンの推進を図るため，地産地消エネルギーの活用についての意見がありました。太陽光発電，風力発電，水力発電，バイオマスや地熱の活用など，地産地消エネルギー創出の可能性を官民連携で検討するというものです。

再生可能エネルギー資源の可能性を調査して，地場の再生可能エネルギー資源の有効活用のため，事業体を創出するという意見がありました。

【スライド６】

次に，ゼロカーボンの推進を図るため，脱化石燃料についての意見がありました。公共施設で使用する燃料の脱化石燃料を推進するというものです。灯油，石油よりもＣＯ２排出量が少ないガス，電気，木質バイオマスへの転換を進めるという意見がありました。

また，公用車のＥＶ化（電気自動車化）を進めることで，ＥＶが市民に広く浸透するという意見がありました。

【スライド７】

次に，ゼロカーボンの推進を図るため，クリーン交通の推進についての意見がありました。公共交通機関を整備し，マイカーの使用を控えることで，ＣＯ２排出量の削減を図ることができます。高齢者や若者にやさしい，早い，安い，きれい，便利な公共交通機関の整備や，買物公園の緑を多くするなど，歩きたくなるまち，自転車に乗りたくなるまちについての意見がありました。

また，バス会社と連携し二酸化炭素を排出しないゼロエミッション車を公共交通機関へ導入するという意見がありました。写真は大阪シティバスが導入した電気バスです。

さらに，相乗りタクシーのシステムを導入し，エネルギー効率を高めた交通システムを構築するという意見がありました。東京都では実証実験済みで，今後，地方へ波及することが予想されます。

【スライド８】

２つめのテーマ「ゼロウェイストタウンを目指して」です。

まずはじめに，私たちがなぜこのテーマを設定したのかをお話しします。

ごみの埋め立ては生活を営む上で必要なものですが，未来に負荷をかけます。１００年後を考えたとき，今のままだとごみの処分場はあと７つも必要になります。

【スライド９】

現在，処分場の衛生環境は大幅に改善しています。ですが，ごみの埋め立てが半永久的に残るのもまた事実です。自然豊かな旭川に私たちはごみの処分場をいくつ残すことになるのでしょうか。

【スライド１０】

写真は自然豊かな春志内のサイクリングロードです。１００年，１０００年後に私たちは何を残したいのか。ごみの処分場は私たちの生活に必要なものです。ですが，ごみを減らせば自

然への負荷は低減できるはずです。今こそ市民みんなでウェイスト（ごみ）を減らすことを真剣に考えるべきだと思いました。

【スライド１１】

写真は徳島県の上勝（かみかつ）町の事例です。ごみ収集車のないこの町は，町民の皆さんが自らゼロウェイストセンターにごみを持ち込み徹底した分別，資源化を行っています。サスティナビリティは観光振興にも移住促進にも重要な要素になっています。さらに収集にかかるコストの削減にも寄与します。

【スライド１２】

こうしたことから，「ゼロウェイスト宣言」を行うという意見がありました。また，市民の皆さんが３Ｒの視点からごみを減量するために，生ごみコンポストの義務化，リターナブル容器の定着化，マイボトルの推進，リペアイベント，シェアリングエコノミーの推進などのほか，緑のごみ袋（燃やせないごみ袋）をなくしたいという意見もありました。

【スライド１３】

また，社会的な課題となっている食品ロス削減の視点からも考えてみました。旭川の家庭ごみの燃やせるごみの３割が生ごみと推計されるそうです。この中には，食べられるにもかかわらず捨てられるという食品ロスが含まれています。

これを減らすための提案として，まちなかに食品ロス削減の機能を付与したスポットの設置，フードバンク活動の推進，規格外品や未利用食品を商品化などのために必要とする人につなげる仕組み作り，飲食店で利用者が楽しく前向きに取り組める食べ残し対策，例えばポイントの付与などがあれば良い，といったような意見がありました。

【スライド１４】

次に，最後のテーマ「自然との共生を目指して」です。

自然・野生生物との共生についての意見がありました。自然と人の集まる森のようなまち，市民一人一人が野生動物との関係性を考える，未来を見据えた森林や河川などの開発，森林の育成，外来種の防除，生物多様性の保護などの意見がありました。写真は，先月実施した「市制１００年ゼロカーボンシティ旭川記念植樹」の様子です。

【スライド１５】

続いて，「都市と自然との調和～子どもからお年寄り，ペットにもやさしい街づくり～」についての意見がありました。北彩都ガーデンのような公園を増やす，また，買物公園の緑地化として，買物公園に芝生のルートをつくるという意見がありました。

【スライド１６】

さて，これまで「ゼロカーボンシティ旭川を目指して」，「ゼロウェイストタウンを目指して」，「自然との共生を目指して」の三つのテーマごとに発表してまいりました。以上の取組について，広く市民に理解していただき，取組に参加していただくためには，どのような学習や情報

発信が必要か参加者で話し合いました。

まず，体験型学習についての意見がありました。ごみ処理場などの見学会の実施，外来種ウチダザリガニ，アズマヒキガエルの防除体験などの意見がありました。体験型学習で直接に触れ，学ぶことにより，意識付けが図られ，自分たちの環境を守ろう行動する意欲が出ると考えました。

【スライド１７】

次に，情報発信の強化についての意見がありました。

ＳＮＳや街頭モニターでの情報発信を強化し，ＣＯ２やごみの排出量などについて視覚的な情報を流すことにより，日常的に環境に関心を持つとの意見がありました。例として，あさっぴーの色でＣＯ２排出量を可視化するなどの意見がありました。

また，学校と連携した環境教育として，気候変動問題や自然との共生などに関する教材を積極的に活用するという意見がありました。

また，市民・ＮＰＯ・行政の輪が大切で，一緒に集まり学ぶ，共同で作り上げるイベント，共に話し合う機会を創出すべきとの意見がありました。

【スライド１８】

最後に，目指すまちの姿について発表いたします。

今回の会議での議論を通じて，２０３０年に向けては，「現在，日本の多くの市町村がゼロカーボンを表明している中，旭川市が先陣を切って取組を進めることでモデルケースを目指したい」，「１００年後，１０００年後の未来のために，ごみの埋め立てという負の遺産をできるだけ残さず，自然豊かな旭川を守るためにごみを減らしたい」，「都市と自然の調和を図る中で，緑があふれる市民の憩いの場を増やし，街を訪れる人に観光スポットとして活用したい」，「『サスティナブル』は，今や観光施策や移住施策においても重要な要素。たくさんの人が訪れたい街，住みたい街づくりを進めたい」と私たちの考えをまとめてみました。

【スライド１９】

そして，「目指すまちの姿（未来に向けて）」として，市民一人一人が環境のことを知り考え，住みやすく魅力あふれる持続可能な街づくりを進め，未来に自然豊かな旭川を残していきたいと私たちは考えました。

以上で，環境分野の報告を終わりますが，今回の未来会議のように私たち市民自らが色んな立場の方と議論できる場が継続的に設置されることで，多種多様な意見や知恵が生まれ，旭川をもっと元気で楽しいまちに出来るのではないかと感じました。

御静聴いただき，ありがとうございました。

（市長）

環境分野の皆様，貴重な御意見をありがとうございました。

先ほども少しお話ししましたが，デザイン創造都市会議がブラジルのサントス市であったのですが，各都市の首長の皆さんとお話ししたのは，環境問題にしても世界の紛争にしても一国

一都市だけでは解決できないので，やはり私たちの都市間の連携を深めていこうということで一致しました。災害に強いまちだと言われていた旭川でも，突発的な大雨や台風，豪雪，強風など色々な災害が起きていますから，自分事のようにこの環境問題に旭川市として取り組んでいかなければならないと思いますし，中核市ですので，全国で６２ある中核市の中で旭川市が先陣を切って取り組んでいくことは他の都市にもまさに旭川モデルとして非常に大きな影響を与えると思いますので，しっかり取り組んでいきたいと思っています。

ゼロカーボンシティ旭川につきましては，まさに今，官民連携での地産地消エネルギーの創出，公共施設の脱化石燃料，公用車ＥＶ化，あるいはバス・タクシーのお話もありましたが，旭川市の「地球温暖化対策実行計画」の改訂の時期に来ていますので，しっかり取り入れていきたいと思っています。

併せて，「食品ロス削減推進計画」も策定中なのですが，ゼロウェイストタウンという意味では非常にこれと連携していくと色々な取組ができるのではないかと思いました。農業分野のお話でも，色々な規格外のものをしっかりこれからも生かしていくというお話がありましたが，未利用食品や規格外のものの有効的な活用，いわゆる３Ｒの取組の充実など，色々あると思いますのでしっかり生かしていきたいと思います。

そして，「自然との共生を目指して」ということでありますが，本当に野生動物と都市との共生というのは非常に難しいテーマです。去年はクマが出没し，非常に経済的にも大きな影響がありましたが，その先に，自然界でどのようなことが起こっているのかなど，そういった幅広い視点を持って，私たち自身も何をしていくべきなのかということを考えて行動していかなければならないと思っています。動物園に今年からえぞひぐま館もオープンして，また近いうちには民間の団体の方々がヒグマのフォーラムを開催されますので，動物との共生を考える，あるいは買物公園の緑地化を含めて，しっかりと人と自然，都市と自然が調和するまちづくりを目指していきたいと思っています。

最後に学習と情報発信についてです。先月，北彩都で子どもたちと植樹をさせていただきました。大人になってからでも自然環境を考えるきっかけになると思いますし，子どもたちにとっては非常に有益な機会だったのではないかと思います。先月の植樹の時には，記念碑に「世界に貢献するサステナブルデザイン都市旭川」と記載させていただきました。幼い時から環境問題を考える，そして私たち自身も考えていく，そういうサステナブルデザイン都市旭川のまちづくりについて，これからもしっかりと取り組んでいきたいと思います。

環境問題は非常に幅広く，テーマも多岐にわたり，どれから取り組んでいったらいいか分からないということもありますが，今回は貴重な御意見を頂いたことに誠に感謝申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

カ　子育て分野

（司会）

子育て分野ではほかの分野に先行したスケジュールで会議を進めており，１０月１日にオープンしました「子育て世代包括支援センターｗａｋａ・ｂａ」の機能や設備などについて議論していただきました。参加者の皆様には７月１日に既に御意見を頂いていますので，今日は頂いた御意見の反映状況などについて事務局から説明させていただきます。

（事務局から報告）

司会から説明があったとおり，７月に既に報告を終えていますので，本日は頂いた御意見・御提言の反映状況を中心に事務局から報告という形で進めさせていただきます。

【スライド１】

まず，子育て分野のテーマですが，「（仮称）あさひかわおやこひろばについて」というテーマで会議を進めてきました。

【スライド２】

この「（仮称）あさひかわおやこひろば」とは何かというところですが，妊娠期から乳幼児期までの保護者，子育てを対象として，切れ目のない支援を行うことを目的とした子育て世代包括支援センターの機能を持ちます子育て支援部のおやこ応援課に，より来場しやすいように遊び場等を併設し，誰もがアクセスしやすい市の中心部，具体的にはツルハ旭川中央ビルの２階に設置する当たりまして，より市民の皆様，子育て中の保護者の皆様が利用しやすい施設にするにはどうしたらいいかという視点で，今回テーマとして設定したものです。

具体的には，施設全体，遊びの空間，愛称，将来的に付加する機能やイベントについて，皆さんから御意見をいただいたところです。

【スライド３】

子育て分野の参加者と会議の経過ですが，参加者は７名で，皆さんが実際に子育て中の保護者の方で，また，市内で子育て支援に関わる活動をされている方で構成されています。会議の経過につきましては，実際の会議としては４月から６月にかけて３回開催しまして，７月１日に市長への報告という形で計４回開催しています。

【スライド４】

実際に子育て分野の皆さんに考えていただいた「（仮称）あさひかわおやこひろば」ということで，まず愛称ですが「ｗａｋａ・ｂａ」という愛称を提案していただきました。この「ｗａｋａ・ｂａ」というのは，わくわく，安心，子育て，旭川のそれぞれの頭文字をとったものと，親子にとって居場所になるようにという意味の「ｂａ（ば）」を組み合わせた言葉と，実際に成長等を想起させる植物の若葉を組み合わせた愛称となっています。

また，ロゴマークについても，参加者の中に，色をテーマに子育て支援に取り組まれている方がいらっしゃいまして，わくわく，安心，子育て，旭川をイメージする色でカラーリングしているほか，「ｗａｋａ」と「ｂａ」の間に若葉をイメージした植物と親子にとっての栄養になるようにという願いを込めて水やりしているじょうろの絵を添えています。

おやこひろば全般に対する意見としましては，安全・安心で行きやすいこと，健診や相談を気軽にできること，そして「みんなで子育て」ということで，子育ては孤独に感じる部分もあるかと思うのですが，一人じゃないということが感じられるような場になればという御意見を頂いたところです。

将来的な機能やイベントにつきましては，非常にたくさんの御意見を頂きましたが，まとめ

ますと「民間・利用者・行政が効果的につながり，子育てに安心と楽しさと自信を感じることができる取組にしてほしい」という御意見を頂いています。

【スライド５】

実際にこのような御意見を踏まえまして，１０月１日にツルハ旭川中央ビルの２階に，御意見をそのまま採用させていただく形で「旭川市子育て世代包括支援センターｗａｋａ・ｂａ」としてオープンしています。

【スライド６】

「ｗａｋａ・ｂａ」のレイアウトですが，おやこ応援課の事務室のほか，プレイルーム，乳幼児健診や相談を行うスペース，ベビールーム等を備えています。

【スライド７】

頂いた御意見をどのように反映したかというところですが，まず施設全体の反映状況としまして，写真左側のプレイルームという場所は，とにかく役所のような雰囲気ではなく，入りやすい雰囲気にしてほしいという御意見がありましたので，床は緑を基調としたタイルカーペットにし，天井は空の壁紙となっています。

写真右側の入口・受付カウンターは，壁紙にお子さんが楽しく来所できるように動物のイラストが描かれた壁紙を採用したり，こちらも天井は空の壁紙にしています。

【スライド８】

乳幼児健診を行うスペースは，プレイルームと統一したイメージとしています。プレイルームを健診の待合スペースとして使用する場合もありますので，待合スペースから健診スペースに移動する時にお子さんが萎縮しないように連続した空間としています。

診察室は，お医者さんが問診を行う場所になるのですが，お子さんが楽しく入れるように壁紙に柄があるものを採用しています。

【スライド９】

施設全体の安全・安心の部分になります。ツルハビルの隣に立体駐車場がありまして，そこと連絡通路で結ばれているのですが，写真の「ＢＥＦＯＲＥ」の部分を見ていただくと分かるように，連絡通路の手すりに隙間があって子どもが手足を出したり物を落として危ないのではないかという御意見を頂きました。そのような御意見を踏まえ，手すりの隙間をパネルで覆ったほか，段差があるものですから，お困りの際に職員がサポートできるようにインターホンを設置しました。

【スライド１０】

こちらの写真は，御意見の中で，子どもが施設を利用するに当たって旭川産の木製玩具を置いたらいいのではないかという御意見を頂きました。ただ，旭川産の木製玩具のラインナップがないのと値段もそこそこの値段がする中で，参加者の方から旭川農業高校で木製スロープトイの研究，製作を行っているとの御意見がありましたので，農業高校に連絡をとり，大小３基

の木製スロープトイをお借りして設置しているという状況です。

【スライド１１】

将来的に付加する機能やイベントですが，民間と連携した子育て支援の取組や，プレイルームの土日の活用に向けたテストイベントとしまして，「安心 わくわく 子育て応援の日 ミンナーデ」ということで開催します。この「ミンナーデ」というのはおやこひろばの愛称の候補として御意見を頂いたものです。愛称には採用できなかったのですが，こういった形で頂いた御意見を活用させていただくことも大事ということで「ミンナーデ」という名前にさせていただいています。

こちらがどのようなイベントかと言いますと，民間で子育て支援に関わる活動をされています個人や団体の紹介・体験ブースを設置するほか，なかなか相談に来てくださいというようなことだけでは来場しにくいと思いますので，「アソボーフェスタ」ということで日本玩具協会との協力・連携により，玩具メーカーからおもちゃのサンプルを提供いただきまして，それで自由に遊べる空間を併設することで，子ども連れでも参加しやすいようなイベントにしたいと思っています。

【スライド１２】

一方で，反映できていない意見も実際にありまして，まだこちらは検討中ですが，図書館で借りた本の返却ポストを置いてほしいという部分につきましては，中央図書館と今後も協議を進めていきたいと思っています。

荷物を入れるロッカーを設置してはどうかという御意見がありましたが，なかなか限られたスペースの中で活動スペースを優先的に確保したいという観点から，ロッカー設置については見送りまして，個別にかごで対応することとしています。

最後になりますが，今後も未来会議での御意見や提言のほか，利用者の声を聞きながら，提言いただいた「自分の子育てに安心と自信がもてるまち」の実現に向け，できることからどんどんやっていくということが大切だと思いますので，取組を進めていきたいと思います。

以上で子育て分野の報告を終わります。ありがとうございました。

（市長）

ありがとうございます。

今日も中心部で予定がありましたので「ｗａｋａ・ｂａ」に寄ってきました。親子体操教室が行われていたのですが，非常に明るい雰囲気の中，皆さん笑顔で教室が行われていました。子育て分野の皆様にはほかの分野に先駆けて色々な御意見を頂き，時間のない中で取り組んでいただき，成果が目に見える形で現れたのが「ｗａｋａ・ｂａ」のオープンだったのではないかと思います。改めて感謝申し上げます。

子育てしやすいまち，安心して子育てできるまち，旭川で子育てしたいと思ってもらえるまちに変えていきたいと思っています。どうしても，ほかのまちのほうが子育て施策が充実しているからほかのまちに住んでしまうというケースも今までに多々見えましたが，これからは「ｗａｋａ・ｂａ」のオープンをはじめ，小学校，中学校，あるいは高校生と，どこまでかは今検討していますが，医療費の無償化を含めて，それ以外にもソフト的に様々取り組めることがあ

りますので，今回貴重な御意見を頂き，これから子どもたちが旭川に住み続けたいと思ってもらえるように，そういったまちづくりにしっかりと取り組んでまいりたいと思っています。

子育て分野の皆さん，本当に貴重な御意見ありがとうございました。

（３）市長お礼のあいさつ

改めて，６分野５８名の参加者の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

非常に貴重な，そして素晴らしい御意見を頂いて，本当に感謝申し上げたいと思っています。

私は，旭川は素晴らしいまちだと思っています。そして，旭川を愛し行動している人がたくさんいると思っています。その中で，行政に対する意見があったり仲間が欲しかったりと，色々な方がいらっしゃるのをずっと見ていて，こういったまちを思う皆さんの力が一つになれば，そして，その思いが行政に届いて施策に反映されて市民の暮らしが変わっていけば，素晴らしいまちになるのではないかと思い，そのきっかけづくりとして今回未来会議を開催させていただきました。

今発表がありました子育て分野の皆さんのように，早速事業に反映できたものもあれば，これから長い時間を積み重ねて実現していかなければならない様々な課題もあると思います。今までは私たち行政との距離も遠かったようなところも正直あると思います。「職員の皆さんはみんな真面目そうな方が多いし，どう話しかけていいか分からない。」というようなことがあったと思うのですが，この会議ではそれぞれの担当の職員が付いて，今まで以上に意思疎通も意見交換も図られたのではないかなと思っています。私たち行政の役割は，市民の皆様が，幸せに，楽しく，安心して，いつまでも暮らしていけるまちをつくっていくことでありますので，今後もこの未来会議をどのような形にするかなども皆様方に相談させていただいて，そして１回で終わりということではなく，しっかりと継続して御意見を頂く仕組みづくりを行っていきたいと思います。また，頂いた御意見につきましても，一緒に取組を進めていきたいと思いますので，どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後も御遠慮なく，きたんのない御意見をください。そして，みんなで一緒に旭川を楽しいわくわくするまちに変えていきたいと思いますので，今後もよろしくお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。